

2013/2/8 緩和ケアリンクにいがた 第26回定例会 話し合いの記録

「看取りに際し、どんなストレスを感じるか」

- *自分の無力さを感じる。
- *患者さんが亡くなられている中で、冷静に観ているような立場が気まずい感覚。
- *亡くなっていく患者さんと家族にどのように接すればいいかわからない。
- *奇跡を信じる心にどう応えるか。
- *がん末期の方が最期に何を考えておられるのか不安に思う。
- *本当にこの方針でよかったのか、自分たちのケアは十分だったのか？
- *生き方を選択できる時代ではあるが医療者が自分の考えを押し付けているのではと思うことがある。
- *意思疎通できていると思っていた家族に些細なことで怒りをぶつけられた。
- *「いつになら死ねるんだろう」という高齢者に対し、何と声をかけたらいいのか？
- *本人は家で死にたいといっているが、家族のストレスが増大し、入院になってしまう場合、本人にどう対応すればいいのか？
- *本人が「家に帰りたい」と強く希望していても転院の相談を受け、その間に退院や外出・外泊のタイミングを逸してしまう。
- *（まだ存命のうち）エンゼルケアについて家族に話すタイミングに悩む。
- *急変して亡くなられた場合の家族への対応。
- *どの時期にどんな提案をしたらいいか（家族の負担軽減の方やケアの方法について）？
- *看取り時の家族への声かけ。
- *よかれと思い在宅療養を勧めたのに遠くに住む親戚から激しく抗議された。
- *だんだん弱っていく患者様の姿をみる辛さ、自分の無力を感じる。
- *自分が良かれと思って行ったことや言動が相手にどう伝わっているのか？
- *コミュニケーション不足の家族に対し、看取りの際のことばかけに躊躇てしまいがち。
- *死期が近いが、亡くなるまでもう少し時間がありそうな時に、ずっといるわけにもいかないが、帰りづらい。
- *楽に往生できるように何かしてください、何とかしてください、と思われているのではないか…。
- *病院との連携タイミングの難しさにジレンマを感じる。
- *自分が子供の時には自宅で亡くなることは普通だった。
- *ストレスはあまり感じないが、泣いてしまう。
- *段取りに追われ、十分に家族と向きあえているか心配
- *家族が療養場所などで迷い、何度も相談されたが、迷いを解消してあげることができない。どんな言葉をかけてあげればいいかわからない。
- *家族はきちんと受け止められているのだろうか？家族の想いの違い。

- *できるだけのことをあげた、と家族が思っているだろうか？
- *本人に負担がかかりそうなことを家族が望む場合の対応。
- *本人は受け入れ「もういつ死んでもいいのよ」と言ったとき、何と応えればよかったのか？
- *家族の不安な気持ちにきちんと応えられているか？
- *自分の言葉かけでかえって傷つけていないか？
- *どう声をかけていいかわからず、病室から足が遠のく。
- *ソーシャルワーカーとして最期の最期にどんな風に関わればいいかわからない。
- *積極的治療ができなくなった患者さんや家族になんと声をかければいいかわからない。
- *治療がなくなったとき、在宅療養やホスピスへの転院を勧める際に「この病院がいい」と泣きつかれると辛い。
- *看取りの話をするとき、「もっと何とかならないのか」と責められている気がする。
- *まだ打ち解けていない時期のコミュニケーションがぎこちなくなる。
- *ひとは死なないと思っている家族と接するときストレスを感じる

- 「家族を失ってまもない遺族と接する時にどんなことを感じるか」
- *いつまで家族とお付き合いを続けていいものか。
 - *お通夜へ出席するかどうか迷うことがある。
 - *通夜に出席してもどう声をかければよいか迷ってしまう。
 - *亡くなられた後、家族への支援はどのようにしたらいいか。
 - *亡くなられた直後の電話で話すことができない。何を話していいかわからない。
どのように声かけをしたらいいかわからない。
 - *ご家族は、亡くなられた方に見守られている。
 - *家族を看取った場合、自分たちがやったことが間違っていたかなかったか問い合わせるのでそれに対して大丈夫、と声をかける。
 - *語り合える同志となりえたか？
 - *何と声をかけたらいいのか…。感謝のことばを言われてとまどう。
 - *（短期間の関わりの場合）家族はどうしたかったのか？どんな思いなのか？自身も混乱したまま。
 - *長く関わった場合は、生前に看取りについて何度も話しあう機会があるのでわかりあえる感じがある。
 - *受けたケアに疑問や不満はなかったのか？
 - *在宅で一生懸命やるだけやり、看取った家族は悲しみもあるが達成感や充実感も感じているでのは。
 - *亡くなって何年か経って、故人の話をされる際に何か責められるのでは？と思ってしまう（そんなことはないようだが）。

- *お通夜に出席して家族に挨拶するが、責められることはないと思いつつ、何か言われないかと思ってしまう。
- *急変して亡くなってしまい、家族の気持ちがついていけない場合、どう声をかければよいのか？
- *家族から「亡くなりました」と電話で伝えられたとき、どう返事すればいいか困る。
- *うまくいった場合は、自分も家族の一員のような気持ちになることがある。
- *自分の言葉が相手に嫌な思いをさせていないか気になる。

「現在、遺族に対してどんなグリーフケアを試みているか」

- *ご霊前・ご仏前のお参りと、家族と思い出をゆっくり語る場をいただいている。
- *グリーフケアをいつまで続ければいいのか？
- *必ずお通夜に出席する。
- *ねぎらいのことばをかける。話を聞く。
- *一周忌のはがき…何を書けばいいか？かえって思いだして辛いのでは？忘れられないということが伝わることが大切？すべてのひとに同じ文章でいいのか？
- *お悔み訪問…いつ頃いったらいいか？手ぶらではいきにくいが？どう声をかけたらいいのか？お礼を言われたり集金したりで落ち着いて話を聴けない。明らかに無理をしている家族への声かけをどうすればいいのか？訪ねて行くのも勇気がいる。
- *「お通夜にきて」「顔を見に来て」と言われたとき、どう応えればいいか？
- *「よく頑張りましたね」と家族をほめる。
- *病院からホスピスに移って亡くなった家族に会いに行っていいものか悩む。
- *ひとりひとり感じ方が違うので、押しつけず、聞くことを心掛けたい。
- *グリーフケア、どこまで立ち入るべき？立ち入れるのか？
- *亡くなる前から、いつでも顔を出してください、と伝えている。

「ケアに関わったひとたちへのグリーフケア」

- *受け持ち患者を亡くしたプライマリーナースへの声かけ。
- *ホスピスへ入院したくなかった患者を看取った時のスタッフへの声かけ。
- *スタッフの間で、どんどん話しあうことでストレスを軽減。
- *自分自身のグリーフケアはどうしていますか？